

[別紙2]

審査の結果の要旨

氏名 岩永典子

本研究は、HIV感染者/AIDS患者が抗レトロウイルス薬（Antiretrovirals：ARV）による治療を受ける際に重要と考えられる家族への告知状況を、HIV流行による影響が深刻なアフリカのザンビアにおいて明らかにするとともに、告知に関連する要因を検討し、さらに告知と生活の質（QOL）について検討したものであり、下記の結果を得ている。

1. 解析対象者115名中、93名（81%）が家族の少なくとも1人にHIV感染を告知していた。告知率81%は、アフリカで行われた先行研究と比べて比較的高かった。その理由として、先行研究の対象者のうちARV治療を受けている患者が0-30%であったのに対し、本研究では対象者全てがこれからARV治療を開始する患者であったことが影響したと考えられた。
2. 既婚者で告知した者（51名）の86%が配偶者に告知していた。また、配偶者とのコンドーム使用は、感染認知前後で有意に増加していた。既婚者の配偶者に対する告知理由として、告知により配偶者からの支援を期待するのに加えて、配偶者に対してHIV感染させることを避けたいとの考えから告知したことが示唆された。
3. ロジスティック回帰分析の結果、告知との関連要因は、家族からの支援に対する認識（オッズ比5.5、95%信頼区間1.2-25.6）と、ARV治療に関する知識（オッズ比3.3、95%信頼区間1.1-10.0）であった。家族からの支援に対する認識が同定された理由として、告知したことにより家族のHIV感染者に対する意識や態度が変化し支援的になったため、告知者は家族が支援的だと感じていると考えられた。また、ARV治療に関する知識が同定された理由として、告知者はARVを服用することの重要性を認識しており、生涯毎日ARVを服薬するのに家族に隠し続けるのは困難であると認識したからだと考えられた。
4. 告知者と未告知者間で、全下位尺度においてQOLスコアに統計学的差異はなかった。その理由として、先行研究によりQOLに影響を与える要因として明らかとなっている社会経済的屬性（雇用、収入、教育）やHIV感染症の進行度などの屬性が、告知者と未告知者間で差がなかったため、告知の有無自体はQOLに反映されなかったものと考えられた。
5. QOL下位尺度のうち役割機能において、告知者は未告知者に比べ劣っている傾向がみられた。役割機能におけるQOLスコアをさらに層別化分析した結果、告知者のうち、

少なくとも高校を卒業した者、HIV 感染および ARV 治療についての知識が高い者において、告知者は未告知者に比べ役割機能が有意に劣っていた。その理由として、これらの告知者は、HIV 感染により自分の健康が損なわれて仕事/家事/学業に支障が出ていることを理解しており、このような状態で家族に HIV 感染を隠したまま生涯毎日 ARV を服薬することは困難であると認識しているため、告知したと考えられた。

以上、本論文はザンビアにおける HIV 感染者/AIDS 患者の家族への告知状況と、告知には家族からの支援に対する認識と ARV 治療についての知識が関連していることを明らかにした。本研究は今後ますます ARV 治療が拡大するザンビアにおいて、ARV 治療を受ける HIV 感染者/AIDS 患者に対する家族からの支援を向上させるための支援戦略を考案するのに重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。